

HDD事業の連続巨額赤字は経営陣の失敗、従業員に転嫁するな！！

会社分割
強制移籍

業績悪化

賞金・ボーナスダウン

「リストラ」
将来不安



異動には本人の事情、希望を最大限尊重

「日立グローバルストレージテクノロジーズ社」以下「日立GST」、2003年、日立製作所から会社分割法により辞令1枚で強制異動させられわずか4年、巨額の赤字を出し続ける日立GSTは、HDD事業をおもにアジア集約・再編、働く者にそのツケを転嫁する「リストラ」に乗り出しました。
小田原関連ではメディア(ディスク)部門の中国(深セン)完全移管に伴い、小田原事業所で働く約200名の組合員・従業員・派遣社員の間で異動面談が始まっています。また、中西CEOはあらたに100名程度の人員削減に乗り出すと発表しました。異動には本人の事情、希望を最大限尊重すべきです。

事業拡大による失敗を働く者に転嫁

HDD事業は全社の儲け頭、優良事業でした。元日本経団連副会長、日本電機工業会会長であり、当事、社長であった庄山会長の肝いりで、03年、IBM社の不採算部門であったHDD部門を2800億円で購入、世界制覇を自論しました。
しかし売上は伸びるものの、シーゲート社等の安売り攻勢にあい、4年連続の巨額赤字、来期も330億もの赤字予算と予測し、経営の失敗を労働者の犠牲でのりきろうとしています。

「このままでは、旧IBM出身者の「どろ舟に乘せられた…」とのつぶやきが、なぜか真実味をおびてきました。

「雇用の安定」は
労働契約承継法
の重要指針

私たちは日立製作所に入社しました。労働条件の変更はないとの約束の下、日立製作所社員のみ日立労組組合員(ユニオンショップ)の「純血主義」規約を変え、日立GST従業員は引き続き日立労組の組合員としました。しかし毎年春闘では子会社の「悲哀」を味わうことになりました。

更に孫会社への出向、そして転籍となれば賃金を始め労働条件の低下は否めません。今、小田原事業所ではメディア部門だけでなく、その他の職場でも出向・転籍の強要が行われています。何度も上長に呼び出され、おおよそ希望のでもない出向先を提示され、自分のため、家族のためと断わり続けている方もいます。「雇用の安定」は異動時の重要な約束事です。

「リストラ」
NOの声を
大きく広げましょ

理不尽な退職強要や、納得できない出向、転属には、毅然と対応しましょう。家族のこと、労働条件、将来の展望を見据え、「リストラ」NOの声を大きく広げましょ。

会社の都合による所属企業の変更はもうごめんです。



ひろば

6月臨時号
<発行>
(ひろば)
編集委員会
気付
0465(37)4426